

平成30年5月15日

各局所管団体御中

経済産業省商務情報政策局情報技術利用促進課

「テレワーク・デイズ」参加企業等の募集について

平素より経済産業行政に格別の御高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、経済産業省では、関係府省（総務省・厚生労働省・内閣府・内閣官房）や、東京都、経済団体と連携し、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした「働き方改革」の国民運動を展開しています。

その一環として昨年の7月24日に実施されたテレワーク・デイにおいては約950団体、約6.3万人の方々にご参加いただきました。

そこで今年はテレワーク・デイズとして規模を拡大し、テレワークを通じた働き方改革をより一層推進していきます。

については、7月23日（月）～7月27日（金）の間で、24日（火）+その他の日の計2日間以上テレワークを実施するよう呼び掛け、専用のホームページで参加企業等を募集します。ふるってご応募ください。

また、交通機関が混雑する始業から10時半までのテレワークの一斉実施や、効果測定に参加いただける企業・団体を募集しております。

つきましては、貴団体におかれましても趣旨に御賛同いただき、会員への周知方ご協力いただくとともに、本取組への参加についても御検討の程、よろしくお願い申し上げます。

<問い合わせ先>

経済産業省商務情報政策局情報技術利用促進課 担当 大西、八日市(ようかいち)  
Tel : 03-3501-2646

以上

# 2020年に向けたテレワーク国民運動プロジェクト 「テレワーク・デイズ」に積極的なご参加をお願いします！



- 総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、内閣官房、内閣府では、東京都及び関係団体と連携し、働き方改革の国民運動を展開しています。
- 昨年、2020年東京オリンピックの開会式にあたる7月24日を「テレワーク・デイ」と位置づけ、テレワークの全国一斉実施を呼びかけた結果、**約950団体・6.3万人**が参加し、国民運動として大きな一歩を踏み出しました。

★2018年は、7月23日(月)～7月27日(金)の間において、各企業・団体の状況に応じて、7月24日(火)＋その他の日の計2日間以上を「テレワーク・デイズ」として実施します。 **2,000団体・延べ10万人の参加を目標**  
 キャンペーンサイト(<https://teleworkdays.jp/>)上で、テレワークを実施する団体・応援する団体の参加登録を受け付けています！  
 登録受付期間：2018年4月20日(金)～7月20日(金)

| 実施団体  | 特別協力団体  | 応援団体   |
|---|---|--|
| 参加人数等を問わずテレワークを実施又はトライアルを行う団体です。<br>※ 初参加の場合など、1日だけ、少人数の参加でもOKです。<br>※ 実施報告は不要です。 | テレワークの実施に際し、<br>①2日間以上実施、<br>②7月24日(火)に100名以上実施、<br>③効果測定<br>(交通混雑緩和、消費支出の変化等)<br>に協力可能な団体です。 | テレワークに係る実施ノウハウ、ワークスペース、ソフトウェア等を提供する団体です。<br>※ 実施団体又は特別協力団体と併せて登録することが可能です。<br>※ 実施ノウハウの提供とは、自社のテレワーク導入の取組等について、ホームページ、メールマガジン、講演等を通じて発信することを想定しています。 |

|   |   |  |   |
|---|---|--|---|
| <h3>テレワーク導入の主な効果</h3>   | <h3>生産性の向上</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワーク導入企業の労働生産性は導入していない企業の<b>1.6倍</b> (H28情報通信白書)</li> <li>・2017年テレワーク・デイ当日の勤務時の生産性が通常時と比較して<b>16%増加</b>(実感値) (A社)</li> </ul> | <h3>ワークライフバランスの確保</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平均残業削減<b>44分/日削減</b>、平均通勤時間<b>97分/日削減</b> (B社)</li> <li>・テレワーク利用者の<b>約80%</b>が「私生活の満足度」が向上したと回答 (C社)</li> </ul> | <h3>優秀な人材の確保・離職防止</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>・女性離職率が5年で<b>49%減少</b> (D社)</li> <li>・育児後の職場復帰率(2016年度実績)が<b>96.5%</b>に (E社)</li> <li>・離職率減少<b>28%→4%</b> (F社)</li> </ul> |
| <h3>交通混雑の緩和</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワーク・デイにおいて東京メトロ豊洲駅のピーク時間帯(8時台)の通勤量が<b>10%削減</b></li> <li>・テレワーク・デイ当日の出勤率が<b>5%以上減少</b>していたエリアが都内の複数(江東区・品川区・渋谷区・新宿区・中央区・千代田区・港区等)に存在。</li> </ul> | <h3>オフィスの消費電力量の削減</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワーク・デイにおいて回答があった全ての団体で実施日の消費電力量が減少(<b>最大18%、平均7.1%削減</b>)</li> </ul>   | <h3>コストの削減</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>・残業時間<b>8.5時間/人月削減</b>により年間<b>3000万円削減</b>、オフィス賃料<b>1500万円/年削減</b>(H社)</li> <li>・1年で印刷枚数が<b>約4割減</b> (I社)</li> </ul>    | <h3>事業継続性の確保(BCP)</h3> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3.11東日本大震災の際に<b>約85%</b>の従業員がテレワークを活用 (J社)</li> <li>・熊本地震発生<b>2日後</b>から仕事を再開 (K社)</li> </ul>                             |

まずは自らテレワークを「やってみる」ことにより、課題やメリットを肌で感じてください！

まずはやってみようテレワーク参加しよう「テレワーク・デイズ」!